

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-64	高 等 学 校	芸 術	音 楽 II	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
89・友社	音 II・311	改訂版 高校生の音楽 2		

1. 編修の基本方針

時代の変化と生徒の実態に即した「楽しい教科書」の提供を意図し、以下の諸点を編修の基本方針とした。

- (1) 高等学校学習指導要領・芸術科「音楽 II」の目標・内容に則る。
- (2) 「音楽 I」からの継続性と「音楽 III」への発展性を重視して内容を構成する。
- (3) 高校生の心情に適した多様な教材を選択し、表現と鑑賞の関連を図るとともに、参考資料を豊富に取り入れて学習効果を高める。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
【全体の構成】 学習指導要領の内容構成にしたがって全体を「表現」と「鑑賞」の 2 分野に分け、「表現」をさらに「歌唱」「器楽」「創作」の 3 領域の内容ごとにまとめた。	「豊かな人間性と創造性を備えた人間の育成」を期し、音楽についての幅広い知識と教養を身に付け、生命を尊び、環境の保全に寄与する態度を養い、豊かな情操としなやかな感性を培うことを目指した(前文/第 1 号/第 4 号)。	p.8-65 p.66-75 p.76-79 p.84-108
【歌唱】 生活や環境とのかかわりのなかで、生徒が自らを見つめ直す観点として、「青春と音楽」「芸術と音楽」「民族と音楽」「人間と音楽」の 4 つの主題ユニットを設定した。	生徒一人一人の価値観を尊重して、その音楽的な能力を伸ばす中で創造性を培い、生涯にわたって音楽と関わり続けるような自主及び自律の精神を養う(第 2 号)。	p.8-21 p.22-37 p.38-53 p.54-61
【器楽・創作】 合奏活動の源を「ヴォイス＋パーカッション・アンサンブル」「ボディ・パーカッション」に求め、そこから生きた合奏を導き出した。創作では旋律作りとともに音素材を生かす活動を重視した。	小集団活動においては自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に芸術界・音楽界の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養う(第 3 号)。	p.66-69 p.70-75 p.76-79
【鑑賞】 「オペラ」「独奏曲」のように楽曲の種類別にまとめて音楽への主体的アプローチを促すとともに、西洋音楽史、日本音楽史、音楽史年表などの資料活用を目指した。	伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養う(第 5 号)。	p.84-97 p.98-103 p.104-108 p.109-うら表紙裏

<p>【内容の取扱い】学習の4観点にちなんだ呼びかけのメッセージを多数配置したり、教材にちなんだ多様な情報を提供したりして、生徒の学習意欲の喚起をうながした。</p>	<p>芸術教育の目標が達成されるためには、生徒が自ら進んで学習に取り組む意欲を高めることを重視して指導を展開する必要がある（第6条第2号）。</p>	<p>p.8, p.18, p.22, p.32, p.38, p.46, p.54 p.80-83</p>
--	--	--

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

本教科書では音楽という教科の特性を生かしつつ、その教育的価値を感受・思考・判断の調和的追究に求め、教材選択は以下の2点に配慮して編修に当たった。

- ①表現教材の選定では「音楽Ⅰ」及び「音楽Ⅱ」の全体を貫く組織的・体系的な学習ユニットを設定した。
- ②鑑賞教材に関しては、生徒の心情に適した多様な楽曲を選定するとともに、それらの理解に役立つ関連情報や豊富なカラー資料をたくさん掲載した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
28-64	高 等 学 校	芸 術	音 楽 II	
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
89・友社	音 II・311	改訂版 高校生の音楽 2		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

芸術科「音楽 II」では、「音楽の諸活動を通して、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現の能力と主体的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める」を目標として、表現と鑑賞の内容の関連を図る中で、我が国及び諸外国の様々な音楽文化についての理解を深めることを目指している。

こうした課題に応えるため、本教科書では、歌唱教材へのアプローチとして、人間と音楽の関わりを 4 つの観点から捉え直した上で、「生きる力」の証として合唱活動を位置付けた。また、器楽や鑑賞の教材選択に当たっては、多様な教材の中から現代の高校生の心情に適したものを厳選し「親しみやすい教科書」の編修に意を用いた。

2. 対照表

図書の構成・内容		学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
歌	青春と音楽 (愛を歌う／自然を歌う)	2A 表現(1) 歌唱アイウエ	p.8-21	
	芸術と音楽 (言葉と音楽／劇と音楽)	2A 表現(1) 歌唱アイウエ	p.22-37	
	唱	民族と音楽 (世界の旅／日本のこころ)	2A 表現(1) 歌唱アイウエ 3 取扱(3)[(4)(7)]	p.38-53
人間と音楽(合唱の楽しみ)		2A 表現(1) 歌唱アイウエ	p.54-61	
器 楽	アンサンブルを楽しもう (ヴォイス＋パーカッション・アン サンブル／ボディ・パーカッショ ン)	2A 表現(2) 器楽イエ	p.66-68	
	リコーダー合奏(2～4 重奏)／リ コーダー運指表	2A 表現(2) 器楽イウ 3 取扱(3)[(3)]	p.70-72, 69	
	箏 2 重奏／バンド・アンサンブ ル／ギター・コード表	2A 表現(2) 器楽アイウエ	p.73-75, 69	
創 作	自分の音楽をつくろう	2A 表現(3) 創作アイウエ	p.76-77	
	アレンジで広がる音楽の世界	2A 表現(3) 創作アイウエ	p.78	
	音素材を生かしてつくろう	2A 表現(3) 創作イ 3 取扱(3)[(5)]	p.79	

鑑	西洋音楽の流れ／日本音楽の流れ	2B 鑑賞ウエ 3 取扱(3)[(7)(8)]	p.2-3, 112-うら表 紙裏	
	西洋音楽の鑑賞曲	2B 鑑賞アイウ 3 取扱(3)[(6)(8)]	p.84-96	
賞	現代日本の音楽／日本の伝統音楽	2B 鑑賞アイウエ 3 取扱(2)(3)[(6)(7)(8)]	p.97, 98-101	
	郷土の伝統音楽／諸民族の音楽	2B 鑑賞アイウエ 3 取扱(2)(3)[(6)(7)(8)]	p.102-103, 104-105	
	ポピュラー音楽史の中のビートルズ／ミュージカル	2B 鑑賞アイウ	p.106-107, 108	
資	作曲家年表／音楽史年表	2B 鑑賞ウエ 3 取扱(2)(3)[(7)]	p.109, 110-111	
	楽典／楽曲の形式と種類／主要音楽用語	3 取扱(3)[(3)(5)]	p.80-83	
料	基本的な発音のポイント (イタリア語, ドイツ語)	2A 表現(1) 歌唱ア	p.27	
	コラム(著作権, 批評文, ほか)	3 取扱(3)[(6)(8)] 2A 表現(1) 歌唱イウエ 2A 表現(3) 創作ウエ	p.33, 86, 62-63, 64-65	
	カラー口絵 (音楽が生まれるとき, ほか)	1 目標 3 取扱(3)[(8)]	おもて表紙裏-1, 4	